

## 2010（平成22）年度 中央大学の事業計画について

～「学生起点の大学づくり」を目指して～

中央大学は、本年、創立125周年を迎えるにあたり、21世紀における新しい社会を創造する、世界に存在感のある大学を目指し、法人・教学・学員が一体となって大学改革に取り組み、新しい大学づくりを推進してまいります。これを機に、建学の精神「實地應用ノ素ヲ養フ」に立ち返り、新しい時代を切り拓き、世界で通用する有為な人材の育成により一層努力します。

本学が取り組むべき中・長期的課題と方策は、2008（平成20）年に策定した「創立125周年に向けて本学を総合大学として更に発展させるための理事会基本方針」（「新理事会基本方針」）に決めました。その本旨は、「教学における事業計画の検討課題」を含めた「今後実施すべき施策に関する政策綱領」であり、これに基づき教職員が総力を挙げて具体的な事業計画を策定し、その実現に向け、2009（平成21）年度より「学生起点の大学づくり」という視点に立ち、各事業が本格的に始動しました。創立125周年という記念すべき節目を迎え、「国際化」を諸施策の基本に据えて、教育・研究機関として更なる発展的な取り組みに邁進していくべきと考えます。

このような認識のもと、2010（平成22）年度事業計画は、「新理事会基本方針」に掲げられている当該年度の計画実施・検討課題に加え、各組織が示した「重点行動計画」、大学評価委員会による「2008年度自己点検・評価における最重要課題」、「2008年中央大学新入生及び在学生アンケート実施結果」、国の政策動向、並びに、2009（平成21）年度事業計画の達成状況等を踏まえ、2010（平成22）年度に実施すべき施策として、以下の重点課題と事業計画を策定いたしました。

### <重点課題>

#### 1. 創立125周年記念事業の推進

創立125周年という記念すべき節目を迎え、記念事業・募金を完遂し、成功させるために体制を一層整備し、更なる展開を着実に図っていく。

#### 2. 教育・研究の質の向上

学部教育（学士課程教育）の充実と大学院教育の高度化は大学としての根幹であり、環境激変の今こそ、教員所属組織の多様化を含め、教育・研究の質の向上を図る各種施策を着実に推進する。

そのために、新たな魅力づくりと教育の充実に向けて、学部再編を含む新学部設置構想を具体化するとともに、その実現・推進方策の一つとして「学術院」構想を検討する。

また、研究者養成の量的縮小の中にあっても、本学にとって大学院の充実は必須である。入学試験を外国で実施することにより、海外からの入学希望者に広く門戸を開放し、オープンドメイン科目による英語での授業を開講するなど、大学院の国際化を推進し、本学大学院の更なる充実を図っていく。

#### 3. 学生の就職活動の緊急支援

未曾有の世界同時不況による学生の就職環境の急激な悪化に対応するため、学員、父母等のステークホルダーとの連携を密にするとともに、教育・研究環境の整備の一環として新宿区市谷田町に取得した新キャンパスを、都心における就職支援の基盤として強化し、学部・大学院生の就職支援対策を一層推進する。

#### 4. 国際化の推進

教育・研究、キャンパスの環境整備など、ハードとソフトのすべての分野で、大学の国際化を

推進するための施策を講じる。国際的な大学としての地位を確立・発展させ、国際社会で貢献できる優秀な人材を育成することを目的として、本学の特色を明確にした国際化戦略を策定し実施する。また、国際的な広報活動を推進する。

#### 5. 総合学園としての教育体制の検討

中央大学附属中学校の開設、学校法人横浜山手女子学園との系属・合併を踏まえて、本学附属学校から大学院までの総合学園としての教育体制のあり方について根本的な検討を行う。

## <2010（平成22）年度事業計画>

### I. 学生の潜在力（Capability）の開発

#### 1. 建学の精神、大学の理念・目的・教育目標の全学的浸透

##### (1) 建学の精神、大学の理念・目的・教育目標の全学的浸透

①建学の精神、各教育研究組織の理念・目的・教育目標の全学的浸透

#### 2. 教育の質の向上

##### (1) 学士課程教育の質の向上

- ① F D活動の全学的推進
- ② G Pへの取組みを通じた教育の質の向上
- ③外国語教育の更なる充実
- ④入学後の基礎力向上教育
- ⑤学部間共通教育（スキーム）の充実
- ⑥新学部の設置の全学的検討
- ⑦学部再編及び「学術院構想」の全学的検討

##### (2) 大学院教育の高度化・実質化と質的向上

- ①大学院博士課程（前期・後期）教育の実質化の推進・展開
- ②学部との教育連携の強化
- ③G P・競争的研究資金への取組みを通じた教育・研究の質の向上
- ④専門職大学院における実践的な教育の推進
- ⑤専門職大学院修了者・実務家の博士学位取得の推進

##### (3) 教員所属組織の多様化

#### 3. 学修支援

##### (1) 学びをやりがいにつなげる体制強化

- ①学生の「やる気応援」支援策の充実
- ②奨学金に関する制度の改善・充実
- ③ファカルティリネージュ・プログラムの更なる充実
- ④「総合学術情報センター（仮称）」設置の検討と図書館機能の充実
- ⑤学生の学術文化活動の支援強化

##### (2) 人間力の醸成

- ①キャリア形成支援の充実
- ②就職支援の拡充

##### (3) きめ細やかな学生対応

- ①学生支援窓口の対応力・サービス向上

②心と体の健康の管理体制の充実

#### 4. 中大ブランドの形成

##### (1) 実学教育の実践

①実学教育としての資格試験対策の充実  
(司法試験・会計士試験・教職課程・公務員等)

##### (2) 女子学生への支援強化

①女子学生応援プロジェクトの推進

##### (3) スポーツ振興

①スポーツ活動の振興策の推進

##### (4) 入学志願者の質的・量的強化

①中高生を対象とした学生募集活動の強化  
②適切かつ有効な入試制度の更なる整備・充実  
③より安定的な入試実施体制及び出題・採点体制の確保

##### (5) 戦略的な広報活動による帰属意識醸成

①教育・研究に関する取組みの積極的発信  
②ステークホルダーを意識した情報の積極的発信

#### 5. 国際化

##### (1) 国際化の推進

①学生の海外留学の支援  
②外国人留学生の受入体制の整備  
③東アジアとヨーロッパをつなぐ「学術シルクロード」の構築  
④「国際戦略本部（仮称）」設置の検討

#### 6. 総合学園づくり

##### (1) 附属中学校・高等学校との連携強化

①附属中学校・高等学校との実質的教育連携の推進  
②学校法人横浜山手女子学園の本学への合併準備

## II. リソースの結集

### 1. 研究力の向上

#### (1) 研究者養成制度の充実

①若手研究者育成システムの構築  
②国際的な研究交流の推進

#### (2) 重点研究分野の形成

①重点研究分野の形成  
②学内研究費制度の活性化と競争的外部資金獲得の促進

### 2. ネットワークの構築

#### (1) ステークホルダーとの連携推進

①他大学との教育・研究連携の推進  
②父母ネットワークの強化

- ③卒業生ネットワークの強化
- ④産学官連携体制の強化

### 3. キャンパス環境整備

- (1) 教育・研究環境の整備
  - ①多摩キャンパスの教育・研究環境、アメニティの整備
  - ②21世紀館（仮称）に係る基本計画の策定
  - ③都心キャンパスの教育・研究環境、施設の整備
  - ④専門職大学院の徹底的強化策の実施と施設設備の整備充実

### 4. ガバナンスの充実

- (1) 意思決定
  - ①教学の意思決定システムについての検討
- (2) 財務基盤の強化
  - ①中長期財務計画の策定
- (3) 各組織の活性化
  - ①事務組織の見直しと業務改善の実施、SDの推進
  - ②重点自己点検・評価から年次自己点検・評価に至る自己改善メカニズムの定着化・高度化
  - ③事業計画のPDCAサイクルの確立
- (4) 危機管理・内部統制
  - ①危機管理体制の全学的強化（事件・災害・薬物・メンタルヘルス・ハラスメント、安全安心キャンパス整備）
  - ②中央大学個人情報保護規程の一部改正

### 5. 創立125周年記念事業

- (1) 創立125周年記念事業計画の推進
  - ①創立125周年記念式典・行事の完遂
- (2) 募金活動の活性化
  - ①目標額100億円達成に向けての募金活動強化

以上

## 2010（平成22）年事業計画の用語解説

単 語	意 味
Capability (ケイバビリティ)	直訳は、能力、可能性。企業の組織的能力を指す場合もありますが、ここでは学生が有する潜在的な可能性（潜在力）の意味で用いています。大学・大学院教育の重要な目的は、各学生が有する多次元的な潜在力を開発することであるという考えに基づきます。
FD (エフディー)	ファカルティ・ディベロップメント (Faculty Development) の略。 個々の教員の教育内容・方法の改善や、向上のための組織的な研究・研修の取組を総称してFDと呼びます。FD活動の成果は、顧客満足 (CS=Customer Satisfaction) の向上、つまり学生満足の向上となって現れます。
FLP (エフエルピー)	ファカルティリンケージ・プログラム (Faculty-Linkage Program) の通称。 2003年度から中央大学で始まった全学横断的な履修プログラムです。 FLP履修学生は、所属学部で主専攻の課程を修めるのに加えて、学部の枠を越えて設けられた新たな知的領域を系統的・体系的に学修し、学際的な視点から専門知識の修得と問題解決能力を高めることができます。 2010年度は「環境」「ジャーナリズム」「国際協力」「スポーツ・健康科学」「地域・公共マネジメント」の5プログラムを開設しています。
GP (ジーピー)	グッド・プラクティス (Good Practice) の略、つまり「良き慣行」のこと。 文部科学省では、大学等が実施する教育改革の取組の中から、優れた取組を選び、支援するとともに、その取組について広く社会に情報提供を行うことにより、他の大学等が選ばれた取組を参考にしながら、教育改革に取り組むことを促進し、大学教育改革をすすめています。この「優れた取組」を「Good Practice」と呼んでいます。
PDCA サイクル (ピーディーシーエーサイクル)	PDCA とは PLAN = 計画する、DO = 行動する、CHECK = 確認する、ACTION = 改善する、の頭文字をとって PDCA と呼んでいます。この PDCA サイクルを回し続けることにより継続的な改善が可能となります。
SD (エスディー)	スタッフ・ディベロップメント (Staff Development) の略。 個々の事務職員の資質向上と大学の活性化のための組織的取組を総称して SD と呼びます。FD と対比して使われることが多い言葉です。SD 活動の成果は、顧客満足 (CS=Customer Satisfaction) の向上、ひいては従業員満足 (ES=Employee Satisfaction) の向上となって現れます。
スキーム (scheme)	「計画を伴う枠組み」のことを言い、現在、情報処理基礎教育や学術情報リテラシー教育、キャリア教育などの枠組みを検討しています。
ステークホルダー (stakeholder)	直訳は、利害関係者。 大学のステークホルダーとは、学生、学生の父母等、教職員、受験生、卒業生、予備校、後援会、高校、企業、研究者、寄付者、監督官庁、債権者、金融機関、取引先、マスコミ、評価機関、市民団体 (NPO・NGO) 等、大学と何らかの関わりを持つあらゆる利害関係者を指します。
ファカルティリンケージ・プログラム	上記 FLP を参照。
リソース (resource)	本学が持っている人的資源、教育・研究力、ネットワーク、施設等の資源、資産を指します。

## 2010（平成22）年度 中央大学の収支予算について

2010年度予算の編成にあたっては事業計画を踏まえ、財政基盤の強化を図りつつ重点的な予算配分を行うことを基本方針とします。

### 収支予算の概要

#### 1. 資金収支予算

資金収支予算の概要は表1のとおりです。

##### [資金収入]

学生生徒等納付金収入については、全体の学生数はほぼ横ばいとなりますが、学部学生数の増加及び修業年限内の学生全てが1%定率漸増の対象となったことにより、増加が見込まれます。また、戦略経営研究科ビジネス科学専攻（博士課程後期課程）の開設に伴う収入も計上しています。

一方で、補助金収入については、複数年次計画の最終年度にあたる耐震補強工事及び吹付材除去工事の補助対象範囲の減少、補助金制度変更の影響により減額が見込まれます。また、昨今の厳しい経済情勢を勘案し、資産運用収入を減額計上しています。借入金等収入については、2010年度は予定しておりません。

なお、中央大学附属中学校開設に要した経費負担を、大会計と中央大学附属中学校・高等学校会計との間で明確にするため、他の会計繰入収入と貸付金支払支出（その他の支出の小科目）を両建てで計上したことで、収支が増加しています。

以上の要素を踏まえて、当年度収入合計は469億7,700万円となり、前年度予算に比べ95億3,500万円（16.9%）の減少となりました。

##### [資金支出]

主な事業内容は「2010年度中央大学の事業計画について」（65～69頁）に記載されていますが、経常支出の大半を占める人件費支出は、5,800万円の減額となりました。教職員等人件費支出については、前年度予算編成時に、上方改定を想定した社会保険料率が想定を下回ったこと等により、1億7,900万円の減額計上としました。退職金支出については、定年退職者数が前年度より増加したため、増額計上となりました。

人件費以外の支出科目については、収入の大幅な減少に対応するため、経費の見直しを図り、全体として減額計上となっています。このような中でも、前年までの大規模耐震補強工事等の影響により一部更新計画が遅れていた多摩キャンパス5・6号館の情報環境整備を中心に教室施設向上に資する計画に予算を計上しました。施設関係支出については、「安全確保」「アメニティ向上」「ランニングコスト低減」「新棟計画」を重点事項に掲げ、具体的には、耐震補強工事及び吹付材除去工事、窓ガラスへの遮熱（飛散防止）フィルム張付、ヨット部新寮、ボート部艇庫、射撃場の建築工事等を行います。

また、2010年度は本学創立125周年の節目に当たり、創立125周年記念事業計画として、記念式典及び各種記念事業、21世紀館（仮称）の設計費用、後楽園キャンパス再開発に係る建築工事費等を計上しています。

予備費については、期中における環境の変化に迅速に対応するため、帰属収入の1%に相当する4億円を計上しました。

以上の結果、当年度支出合計は467億6,400万円で、前年度予算に比べ107億6,600万円（18.7%）の減となりました。

この結果、当年度収支差額は2億1,300万円の収入超過となりました。また、次年度繰越支払資金は120億7,900万円となる見込みです。

## 2. 消費収支予算

消費収支予算の概要は表3のとおりです。

### [消費収支]

消費収入では、学生生徒等納付金、他の会計からの繰入収入が増加しますが、補助金、資産運用収入、事業収入が大幅に減少するため、帰属収入全体では減少することとなりました。また、収入控除科目である基本金組入額は、市ヶ谷田町キャンパスの借入金返済による組入及びヨット部新寮建築工事等により増加しますが、前年度計上していた中学校校舎建設工事が終了し、耐震補強工事範囲も減少したことから、前年度に比べ減少しました。

一方、消費支出は退職給与引当金繰入額、減価償却額、市ヶ谷田町キャンパス取得時の借入金等利息、建て替え工事等による既存施設の資産処分差額を増額計上しましたが、資金支出が大幅に減少したため、全体として減少しました。

この結果、当年度も消費収支差額は支出超過となり、前年度に比べ23億3,300万円減少し、24億1,800万円になる見込みです。

※2010（平成22）年度中央大学の収支予算の詳細については、ホームページでもご確認いただけます。

[http://www.chuo-u.ac.jp/chuo-u/about/a03\\_j.html](http://www.chuo-u.ac.jp/chuo-u/about/a03_j.html)

表1 資金収支予算（概要表）

（単位：百万円）

資金支出の部				資金収入の部			
科 目	2010年度 予 算	前 年 度 予 算	増減(△)	科 目	2010年度 予 算	前 年 度 予 算	増減(△)
人件費支出	21,435	21,493	△ 58	学生生徒等納付金収入	29,304	28,973	331
教職員等人件費支出	19,924	20,103	△ 179	手数料収入	2,024	2,173	△ 149
退職金支出	1,511	1,390	121	寄付金収入	1,124	1,122	2
教育研究経費支出	9,769	11,389	△ 1,620	補助金収入	3,266	4,353	△ 1,087
管理経費支出	1,434	1,777	△ 343	資産運用収入	872	1,531	△ 659
借入金等利息支出	196	41	155	事業収入	416	541	△ 125
借入金等返済支出	1,968	3,533	△ 1,565	雑収入	1,168	1,098	70
施設関係支出	3,820	12,162	△ 8,342	他の会計繰入収入	4,464	351	4,113
設備関係支出	909	1,610	△ 701	借入金等収入	0	10,027	△10,027
資産運用支出	2,522	4,132	△ 1,610	前受金収入	12,577	12,638	△ 61
他の会計繰入支出	293	517	△ 224	その他の収入	5,532	7,108	△ 1,576
その他の支出	4,775	1,513	3,262				
予備費	400	300	100				
資金支出調整勘定	△ 757	△ 937	180	資金収入調整勘定	△ 13,770	△ 13,403	△ 367
当年度支出合計	46,764	57,530	△10,766	当年度収入合計	46,977	56,512	△ 9,535
次年度繰越支払資金	12,079	12,686	△ 607	前年度繰越支払資金	11,866	13,704	△ 1,838
計	58,843	70,216	△11,373	計	58,843	70,216	△11,373
当年度収支差額	213	△ 1,018	1,231				

表2 資金支出予算の目的別内訳表

(単位：千円)

分類項目	2010年度予算	前年度予算	増減(△)	前年比(%)
① 教育関係費	1,806,612	2,033,434	△ 226,822	△ 11.2
② 研究関係費	1,017,631	1,222,686	△ 205,055	△ 16.8
③ 研究所関係費	305,926	324,674	△ 18,748	△ 5.8
④ 図書館関係費	842,696	851,422	△ 8,726	△ 1.0
⑤ 国際交流関係費	290,837	291,728	△ 891	△ 0.3
⑥ 情報環境整備関係費	1,123,207	1,678,683	△ 555,476	△ 33.1
⑦ 課外教育関係費	576,634	576,653	△ 19	0.0
⑧ キャリア(就職)関係費	63,824	75,504	△ 11,680	△ 15.5
⑨ 福利厚生関係費	2,604,110	2,522,398	81,712	3.2
⑩ 入学試験関係費	640,445	643,670	△ 3,225	△ 0.5
⑪ 広報・渉外関係費	332,645	210,949	121,696	57.7
小計	9,604,567	10,431,801	△ 827,234	△ 7.9
⑫ 施設整備拡充関係費	3,801,116	12,330,428	△ 8,529,312	△ 69.2
⑬ 施設維持関係費	2,078,346	2,041,375	36,971	1.8
⑭ 共通費	21,926,334	21,827,293	99,041	0.5
(人件費支出)	21,434,682	21,492,689	△ 58,007	△ 0.3
(その他)	491,652	334,604	157,048	46.9
⑮ 借入金等返済計画	2,163,893	3,573,833	△ 1,409,940	△ 39.5
⑯ 資産設定運用計画	2,309,808	3,979,629	△ 1,669,821	△ 42.0
⑰ 他会計・その他関係費	4,879,577	3,345,588	1,533,989	45.9
当年度支出合計	46,763,641	57,529,947	△ 10,766,306	△ 18.7

図1 資金支出予算の目的別内訳構成図

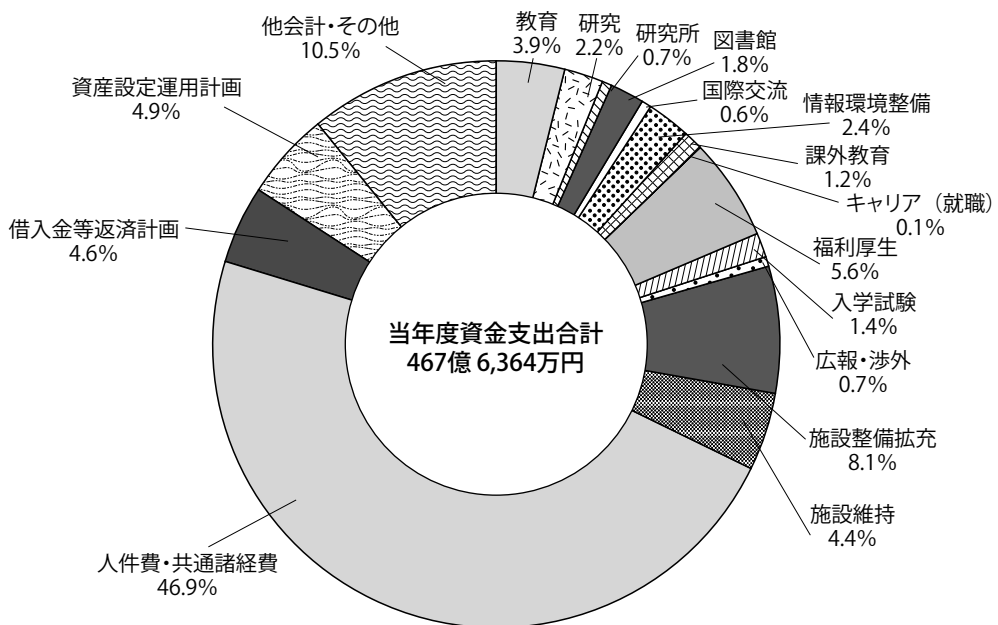




表3 消費収支予算（概要表）

（単位：百万円）

消費支出の部				消費収入の部			
科目	2010年度 予算	前年度 予算	増減(△)	科目	2010年度 予算	前年度 予算	増減(△)
消費支出	36,524	38,030	△ 1,506	帰属収入	39,515	40,214	△ 699
（資金支出）	32,016	33,928	△ 1,912	基本金組入額	△ 5,409	△ 6,935	1,526
（退職給与引当金）	1,148	1,000	148	（新規組入）	△ 4,104	△ 6,403	2,299
（減価償却額）	3,000	2,883	117	（借入金等返済に伴う組入）	△ 1,305	△ 532	△ 773
（資産処分差額等）	360	219	141				
消費支出の部合計	36,524	38,030	△ 1,506	消費収入の部合計	34,106	33,279	827
当年度消費収支差額	▲ 2,418	▲ 4,751	2,333				
計	34,106	33,279	827	計	34,106	33,279	827

（注記） 中央大学附属中学校・高等学校との基本金振替

他の会計への繰入額 333  
基本金振替額 333

図2 帰属収支構成図

